

# 日本システム監査人協会報

## 第2回会員研究会研究会開催さる



㈱プライド 松平 和也氏



農林中央金庫 高橋 健一氏

5月20日(金)、第2回委員研究会が、東京港区虎ノ門のサンワ・等松青木監査法人会議室において開催された。当日は、会員・非会員あわせて30余名が出席した。

定刻どおり午後6時30分より講演が開始された。今回のテーマはシステム開発技法として広く知られている「PRIDE」であり、概論については、㈱プライド代表取締役 松平和也氏より説明があった。また「PRIDE」を利用したユーザー代表として農林中央金庫事務管理部システム管理課長 高橋健一氏より、その使用法や開発経験についての貴重な体験談が披露された。講演後質疑応答の時間に入り、午後9時すぎ、散会した。

なお第3回会員研究会は7月22日(金)、第4回会員研究会は9月22日(木)にそれぞれ開催される予定である。詳細は4ページ参照。

### <講演内容>

#### 1. PRIDE概論(松平氏講演)

PRIDEはPROFITABLE INFORMATION BY DESIGNの略であり米MBA(ミルト・プライス&アソシエイツ)社のシステム開発方法論である。現在は、人、物、金、情報、特に「価値のある情報」(Profitable information)を企業は求めており、まさに「PRIDE」を求めている。

「PRIDE」の基本思想としては、「情報

システムは他の工業製品と同じく設計され製造されてしかるべきである」というものである。

これにのっとり、要求仕様から、分析、設計、開発、移行、評価までを9フェーズに分けて開発手続を標準化し、情報設計とシステム設計を同時に設計する方法が「PRIDE」である。

#### 2. 「PRIDE」を使用して(高橋氏講演)

農林中金では1987年11月第3次オンライン・システムの中核部分である勘定系システム「TERRA(テラ)」を稼動した。TERRAは総プログラム数が4170本、ステップ数が280万ステップといった規模のものであったが、農林中金は独自のプロジェクト管理手法を用いて、これだけのシステムをスケジュール通りに、しかも見積り通りの費用で作成あげた。このプロジェクト管理手法のベースになったのが「PRIDE」である。

ただし、PRIDEをそのまま適用するには問題もあった。作業が膨大になることと、マニュアルの一部が日本語になっていなかったことから、日本システムックス社(松平社長)の協力を得て、独自にカスタマイズした。こうしてできあがったマニュアルが標準化マニュアルであり、これを作成したことが、成功した鍵のひとつであると思っている。

## 第2回会員研究会に参加して

第2回の会員研究会は、システムの企画・開発に携わる者にとって共通の悩みをどのように組織的に解決するかという「システム開発方法論」がテーマであった。

㈱プライドの松平和也氏は、情報システムの目的から説き明かされ、情報システム部門は、企業の利益獲得のための情報を産み出す「情報企画部」、さらには「利益情報企画部」として位置付けられるべきであると述べられた。日頃、末端の個別システムの開発ばかりに目を奪われている我々にとって基本として忘れてはならないことであると感じた。

実際の適用例については、農林中央金庫の高橋健一氏から、実際に使用されている進捗管理のための帳票を例に示しながらの具体的なお話しを伺うことができ、大変参考になった。

開発方法論を実際の開発作業に適用するとき、その遵守についてどこまで厳格に要求するか、開発または保守の規模に対応してどのように適用しているかについては、最も興味のあるところ

である。同金庫では、「システム化推進委員会」の検討対象となる規模のシステム（その規模は、予算、工数によって規定されている）については、PRIDEの全フェーズの手続を踏むようにしているとのことであった。

システム監査においても、システム監査基準に定められている監査ポイントをどのようにシステムの実態に合わせて、検討していくかが問題となる。システムの規模や形態に合わせて必要とされるコントロールのレベルについて、実務家の立場から具体的な検討と意見交換の必要性を痛感した。

今回の研究会においては、プリンシプルの部分と実際の適用面の両者についてお話しを伺うことができたことが非常に有益であった。今後の研究会においても、両面を意識した企画に期待したい。

(㈱オービックビジネスコンサルタント  
石島 隆)

## システム監査人倫理規定（案）について

システム監査人倫理規定（案）については、全文を第2回会報（1988年、4月発行）に掲載しましたが、第1回、第2回の理事会において、議論された内容、経緯等について、説明します。なお、会員の皆様から当案に関する意見、要望、代替案等（「倫理規定」というタイトルも含む）を募集しておりますので、事務局までFAXまたは郵便でご送付ください。

### (1) 規定のタイトルについて

規定のタイトルとしては、「行動基準」「倫理規定」「紀律規則」等が考えられるが、「倫理規定」が規定の内容を明確に表しており、一般的と考えられるので、これを案とした。

### (2) システム監査人と監査対象組織体との関係について

システム監査人は、組織体の内部に属するケースと外部に属するケースがあるので、両者に共通して適用できる規定内容として

### (3) 第1条について

システム監査人の任務ないし監査の目的を示したものである。

### (4) 第2条について

「システム監査の基準」とした（「の」を入れた）のは、システム監査の実施に当たって準拠すべき基準としては、通産省の「システム監査基準」のほかにも「金融機関のシステム監査指針」など業種別の基準もあるため、「システム監査基準」のみに限定しないためである。

### (5) 第5条について

自らが企画・開発・運用に関与した情報システムの監査を行ってはならないという形で、システム監査人の独立性の実務的・実践的内容を規定した。

(註) 会報第2号の「システム監査人倫理規定(案)」のうち、「前文」とすべきところが「全文」となっておりますので、訂正させていただきます。

## 「システム監査協議会第9回秋期シンポジウム」発表者募集について

「システム監査協議会」（会長 手塚慶一大阪大学教授）は、昭和60年度に設立された研究団体であり、システム監査に関する調査研究、研究会・研究発表会の開催を中心として、活動を行っています。このたび、同協議会が昭和63年10月12・13日に、東京の池之端文化センターにおいて秋期シンポジウムを開催することとなりました。日本システム監査人協会といたしましても、他の関連団体との連携・協調を図り、システム監査を普及させるため協力したいと存じます。つきましては、同シンポジウムにて発表を行いたい会員の方は、下記までお問合せください。なお締切日は、それぞれ発表申込8月10日、参加申込9月12日、原稿9月12日となっております。

### 〔お問合せ先〕

1. システム監査協議会企画委員会  
電話：06-323-1039
2. 大阪大学経済学部 真田英彦研究室  
電話：06-844-1151

### 昭和62年度・勤務先別 受験者数・合格者数一覧表

勤務先	受験者数	合格者数	合格率
電算機製造又は販売企業	1,150	67	5.8%
ソフトウェア企業	1,535	78	5.1
情報処理サービス企業等	1,001	65	6.5
上記以外の一般企業、団体	1,769	138	7.8
官公庁	65	1	1.5
学校、研究機関	87	2	2.3
自営業	60	0	0.0
会計士事務所等	215	25	11.6
その他	59	2	3.4
無記入及び学生等	29	0	0.0
合計	5,970	378	6.3%

（日本情報処理開発協会情報処理技術者試験センター発表資料による）

### ＜合格者の連絡先調査のお願い＞

昨年10月に実施された第2回システム監査技術者試験の合格者を見つけた時は、事務局まで至急FAX（03-415-1388）でご連絡ください。

## 新入会員名簿

昭和63年4月23日～7月8日入会者 16名  
（五十音順）（氏名の\*は準会員を示す。）

氏名	連絡先	登録番号
魚谷 悦巳	日本システムディベ ロップメント	197
江口 潤	江口潤公認会計士事務所	196
大島 博行	セイコーシステム㈱	201
長田 清忠	センチュリー監査法人	195
尾谷 正春	英和監査法人	208
*齋藤 光正	兼松コンピュータシステム	202
*坂本 進	日本システミックス	200
田村 雅紀	三和銀行	199
戸奈 常光	監査法人朝日新和会計社	198
中野 高宏	松下住設機器	206
馬場 要輔	三菱銀行	203
林 孝治	日本電気ソフトウェア	205
*原田 行男	日本大学経済学部教授	207
松田 貴典	日本ユニシス	209
三島 正広	九州ソフト開発	204
森末 清成	日本インフォメーション エンジニアリング	210

昭和63年7月8日現在

正会員201名 準会員19名 合計210名

### 広告出稿のお願い

1. 当協会の趣旨に従うもの
2. 広告料金

	会 員	非会員
モノクロ 1 ページ	8万円	10万円
〃 1/2ページ	4万円	5万円
〃 1/4ページ	3万円	4万円
3. 版サイズ

ページ上部のタイトル  
を除いた版下の奥寸

1 ページ	205 mm × 162mm
1/2ページ	102 mm × 162mm
1/4ページ	51 mm × 162mm
4. 掲載ページ 中面（記事ページ）
5. 発行部数 1,000部（昭和63年7月現在）

## 会員研究会のお知らせ

### <第 3 回 会 員 研 究 会>

日 時：昭和63年7月22日（金）

午後6時30分より8時30分まで

会 場：サンワ・等松青木監査法人会議室  
（虎ノ門琴平会館2階）

テーマ：コンピュータネットワークの現況と今後の展開～セコム株式会社の場合

講 師：セコム株式会社広報室長  
加藤 善治郎氏

### <第 4 回 会 員 研 究 会>

日 時：昭和63年9月22日（木）

午後6時30分より8時30分まで

会 場：第3回と同じ

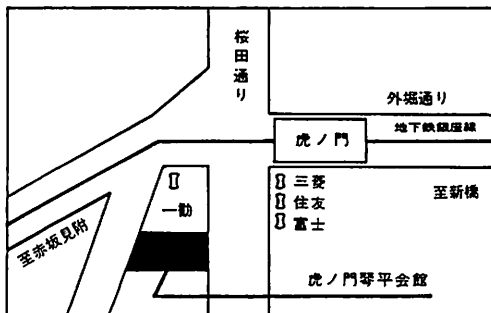
テーマ：被監査部門から見たシステム監査の課題～外部システム監査を受けて

講 師：日本ユニシス株式会社  
事務管理部企画課課長

黒熊 雄治氏（当協会理事）

会場のご案内：地下鉄銀座線虎ノ門駅

下車徒歩2分



会 費：会 員1,000円（正会員、準会員とも）  
非会員2,000円

※会費は、当日会場にてお支払ください。

申込方法：FAXまたは郵便にて、下記事務局までお申込ください。

## 事務局からのお知らせ

### <住所変更について>

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

### <協会マーク募集締切せまる>

事務局では、当協会のマークを募集しています。バッジ等に使用するもので、採用させていただいた方には、記念品と感謝状を差し上げます。7月末までに事務局までFAXまたは郵便でお送り下さい。なお、マークの著作権は当協会に属するものとし、原本は返却できませんので御了承下さい。

### <会費振込のお願い>

本年度(昭和62年12月12日～昭和63年12月31日)の会費(正会員10,000円 準会員8,000円)を未納の方は、下記宛に早急にお振込みください。

郵便振替口座	東京 1-352357
加入者名	日本システム監査人協会事務局
銀行振込口座	第一勧業銀行 北沢支店
	普通 1053488
口座人名	日本システム監査人協会 事務局 鈴木信夫

発行所 日本システム監査人協会  
発行人 川野 佳範  
事務局

〒157 東京都世田谷区砧1-10-11  
NHK放送研修センター内 鈴木 信夫  
TEL.03(415)7111(内41) FAX.03(415)1388  
※ご連絡はなるべく郵便またはFAXをお願いします。

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)

長野 正己 東京海上火災保険株式会社  
TEL.0425(76)1556 FAX.0425(73)3497  
石島 隆 株式会社オービックビジネスコンサルタント  
TEL.03(342)1881 FAX.03(342)1874  
徳丸 嘉彦 富士通ソフトウェアファクトリー  
TEL.03(730)3138 FAX.03(734)4155  
村上 正気 株式会社情報システム部  
TEL.03(623)8111 FAX.03(624)6534